



講師

二階堂 泰隆

大阪医科薬科大学病院

司会：野添 匡史（兵庫医科大学）

要旨

本講演では、主に特発性正常圧水頭症(iNPH)患者のナラティブから生じた臨床疑問が、歩行・バランス障害の特徴や転倒リスク因子の同定に関する研究、診断精度の向上に関する研究、そしてシャント術後の動的バランス運動介入による無作為化比較試験(RCT)へと発展させていった過程を紹介する。iNPH の理学療法研究は日本ではマイナーだが、その本質的な思考過程は他の神経疾患にも共通していると信じている。ナラティブ、ラショナル(理論的妥当性)、エビデンスこれらの相乗効果により、神経理学療法におけるエビデンス創出と臨床応用をより高次元へ引き上げる可能性について議論できればと思う。

略歴

1999 年 日産学園京都自動車工業専門学校 卒業
1999 年～2003 年 大阪日産モーター株式会社
2007 年 行岡リハビリテーション専門学校 卒業
2007 年～2021 年 大阪医科薬科大学病院 リハビリテーション科
2013 年～2019 年 学校法人大阪医専 非常勤講師 兼務
2014 年 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科博士前期課程 修了
2018 年 神戸大学大学院保健学研究科保健学専攻博士課程後期課程 修了
2021 年～現在 大阪医科薬科大学病院 リハビリテーション科 主任・リスクマネージャー
2025 年～ 現在 京都大学 脳機能総合研究センター 研究協力員

業績

1. Nikaido Y, et al. Role of the Functional Gait Assessment in validating item difficulty hierarchy and fall risk for idiopathic normal pressure hydrocephalus. *Mov Disord Clin Pract* 2025;12(9):1264-1274.
2. Nikaido Y, et al. Rehabilitation effects in idiopathic normal pressure hydrocephalus: a randomized controlled trial. *J Neurol* 2023, 270:357-368.
3. Nikaido Y, et al. Dynamic gait stability in patients with idiopathic normal pressure hydrocephalus with high and low fall-risk. *Clinical Biomech*, 2022, 99:105757.
4. Nikaido Y, et al. Perceived and actual changes in gait balance after CSF shunting in idiopathic normal pressure hydrocephalus. *Acta Neurol Scand*, 2021, 144(1): p21-28.
5. Nikaido Y, et al. Dynamic balance measurements can differentiate patients who fall from patients do not fall in patients with idiopathic normal pressure hydrocephalus. *Arch Phys Med Rehabil*, 2019, 100(8): p1458-1466.
(Researchmap: <https://researchmap.jp/Pekio-1100>)